

令和5年度

学校評価・学校関係者評価

報告書



甲府市立笛南中学校

目次

本校の学校評価について	1
学校運営と評価改善の年間計画	2
笛南中学校経営方針	3
学校評価 自己評価のまとめ	5
今後の学校運営の方向性	8
学校関係者評価 結果	9

参考資料

①自己評価の根拠とした取組等の記述まとめ	10
②改善すべき内容や意見	13
③自己評価の数値集計表年間比較	16
④生徒・保護者アンケートの分析	17
⑤【資料】生徒アンケート	21
⑥【資料】保護者アンケート	28

本校の学校評価について

本校の学校評価は、学校教育法および学校教育法施行規則に基づき、自己評価、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善を進めるとともに、甲府市教育委員会に報告し、ホームページで公表する。

○学校教育法

第 42 条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

○学校教育法施行規則

第 66 条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第 67 条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第 68 条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

参考資料

「学校評価ガイドライン[平成 22 年改訂]」文部科学省

「やまなしの学校評価推進のための手引書」平成 22 年 3 月 山梨県教育委員会義務教育課

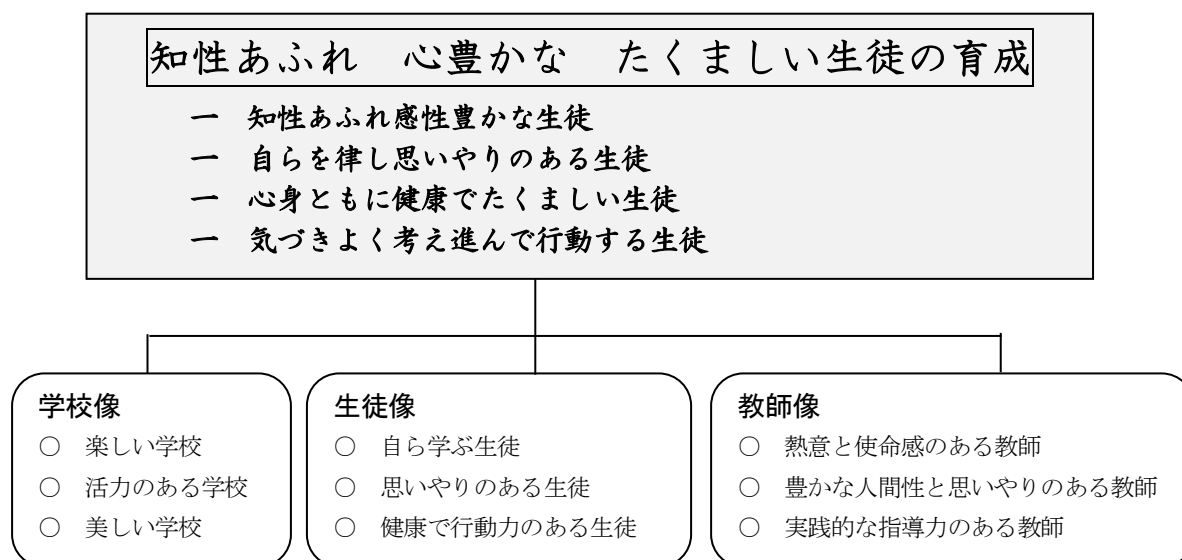
学校運営と評価改善の年間計画

県・市教育委員会		学校運営協議会	学校評価	人事評価	根拠資料等	保護者関係行事
4月	市 学校教育指導重点説明	第1回 学校運営協議会	学校経営方針 学校評価の説明 自己評価項目と指標の作成		前年度学校評価資料 企画委員会での検討内容	PTA新旧執行部会 第1回PTA役員会 PTA定期総会 学年PTA総会
5月	学校要覧・教育要覧の提出		教職員の目標設定と取組の開始	自己観察書の作成 一次面接	拡大企画委員会による 評価項目と指標の検討	
6月			学校関係者評価の項目の設定と資料の作成	取組成果の観察・記録・指導		6月初旬授業参観・懇談会 6月下旬第2回PTA役員会
7月		第2回 学校運営協議会			学力把握調査の結果 期末テストの結果	7月中旬学校保健委員会
8月					全国学力・学習状況調査結果	
9月		(学園祭への参加)	教職員の改善の取組	研究授業等 成果の確認等		学園祭 9月下旬 第3回PTA役員会
10月				能力評価	中間テスト(9教科)の結果	
11月						
12月			生徒・保護者アンケート 自己評価 年間の学校評価のまとめと改善案		期末テストの結果	
1月			学校関係者評価の資料作成	業績評価		授業参観・学年懇談会 PTA役員選考会(2年生) PTA役員選考会(1年生)
2月		第3回 学校運営協議会	学校関係者評価 今年度のまとめ ホームページで公表	評価結果の面接		第4回PTA役員会 新入学生徒保護者説明会
3月	初旬 学校評価報告書提出 中旬 次年度教育課程の提出	(卒業式)	次年度への学校経営方針の作成・引継書の作成	評価結果の面接		

令和5年度 学校経営方針

甲府市立笛南中学校

1 学校教育目標



2 学校経営の基本方針

- (1) 適切な教育課程を編成し，PDC Aサイクルによる評価と改善に努める。
- (2) 分かる授業を目指し，生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (3) 明るく楽しい学校を目指し，いじめや不登校等の早期発見・早期対応に努める。
- (4) 学校安全や生徒指導などの危機管理体制の充実に努める。
- (5) 家庭や地域，小学校との連携を図り，信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員相互の「信頼と和」を築き，互いに協力し支え合う職場づくりに努める。

3 本年度の県・市の指導重点

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの推進による確かな学力の向上

「やまなしスタンダード」の深化 + 「甲府スタイル」の授業づくり

- ① 基礎・基本の定着を図り，学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりに努める。
- ② 言語活動の充実に努め，思考力・判断力・表現力を身に付ける授業づくりに努める。
- ③ 「見通し」と「振り返り」のある分かる授業の実践に努める。
- ④ 個－集団－個の活用を図り，主体的・対話的な学習過程の構築に努める。
- ⑤ 自主学習ノート等の取組を通して，家庭学習の充実と学習習慣の確立に努める。
- ⑥ 考える力や記述力を高める設問と指導により学力向上のための授業改善に努める。
- ⑦ 教科の授業において ICT 機器を積極的に活用し，情報活用の実践力の育成に努める。

- (2) 自己実現を図る力を育む生徒指導と心の教育の充実～思いやりのある生徒

いじめを許さない集団づくり + 「思い遣る心」をもった道徳的実践力の育成

- ① 「道徳科」の授業実践と評価により，「心の教育」の充実に努める。
- ② あいさつ運動，朝読書，合唱活動，美化活動等の充実に努め，潤いある学校づくりを進める。
- ③ 社会性を育成する生徒指導を実践し，認め合い学び合う学級づくりに努める。

- ④ 生徒が理解し向上しようとする意欲につながる指導を心がけ、保護者と共に認め励ます指導に努める。
- ⑤ いじめ・不登校については、未然防止に重点を置き、早期発見・早期対応に努める。
- ⑥ 携帯電話、スマートフォン等のマナーやモラル、危険性について指導の充実を図る。
- ⑦ 生徒会活動、部活動の充実をはかり、好ましい人間関係の育成と体力・技能の向上に努める。
- ⑧ きめ細かな進路指導に努めるとともに、将来を見つめたキャリア教育を推進する。
- ⑨ 青少年赤十字活動（JRC）の活動を推進し、「気づき、考え、実行する」生徒の育成を図る。

(3) 自他を守り、命を大切にす健康・安全教育の推進～健康で行動力のある生徒

健康な生活に必要な資質等の育成・学校安全管理体制の充実 + **日々運動に親しむ習慣の確立**

- ① 授業や体育的行事等を通して進んで運動を実践する意欲を育て、体力向上を図る。
- ② がん教育をはじめとした健康課題への対応に努め、心身の健康の保持増進に取り組む。
- ③ 日常的に起きる事件・事故に際し、自ら安全な行動をとる能力を育む生活安全教育を推進する。
- ④ 自転車利用に関する指導を充実させ、危険予測能力を向上させる交通安全教育を推進する。
- ⑤ 非常変災時に地域安全の率先者となる資質・能力を向上させる災害安全教育を推進する。
- ⑥ 危機管理マニュアルを見直し、実践的な防災・防犯訓練を計画的に実施する。
- ⑦ 感染症への正しい理解を図り、適切な感染予防対策の育成を図る。
- ⑧ SDGs への取り組みを推進し、持続可能な社会の創り手としての資質・能力育成を図る。

(4) 自立を育む特別支援教育の体制づくり

「個別の教育支援計画」等の作成と活用 + **的確な実態把握に基づく個に応じた指導の充実**

- ① 生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し、一人一人を伸ばす指導と評価に努める。
- ② 「個別の教育支援計画」に基づき、生き生きと学習できる環境・授業づくりに努める。
- ③ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への合理的な配慮に努める。

(5) 家庭・地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化

積極的な情報公開 + **学校運営協議会との連携による保護者・地域住民の参加機会の充実**

- ① 「ふれあい活動」のねらいをもとに、日常的に交流を深めるPTA活動を展開する。
- ② 学校・学年・学級通信やホームページ等を活用し、積極的な情報提供に心がける。
- ③ **学校運営協議会との連携を図り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。**
 - ア「地域を知る」
 - ：『ふるさと山梨』等を活用して、郷土に誇りを持つ生徒の育成に努める。
 - イ「地域とともに学ぶ」
 - ：地域や保護者に授業公開するとともに、諸活動への地域人材の積極的な活用に努める。
 - ウ「地域に出て地域と関わる」
 - ：教育活動の場を地域に広げるとともに、地域行事等への生徒の積極的な参加を促す。
- ④ 合同研究会や授業交流等小学校との連携を強化し、円滑な接続や共通課題の解決を図る。

4 笛南中学校の指導重点

(1) 特別支援教育の知識を深め、通常学級の生徒を含め、学級経営の充実と適切な支援・配慮を行う。

- ① 支援計画・指導計画のもとに情緒自閉症学級、知的学級に在籍する生徒の支援を行う。
- ② ADHDの発達障害について知識を深め、その傾向のある生徒の支援を行う。

(2) 学習指導要領の趣旨を理解し、その実現に努める。

- ① 校内研究により計画的な教育課程の編成と完全実施に努める。
- ② 各教科の観点の内容と、評価の具体例のもとに授業実践を行う。
- ③ ②を人事評価自己観察書の「教科指導」に記し実践する。

令和5年度学校評価のまとめ

【結論】

新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、主な行事がコロナ流行前と同様に実施できるなど、生徒の成長を第一に考えた学校運営を行うことができた1年間であった。さらにGIGAスクールに関わる学習活動が活発になり、多様な実践に取り組むことができた。

コロナ禍の様々な制限が緩和され、前向きな発想を実施・実現につなげることができ、子どもたちをどう育てるかという視点で学校運営にあたった。その結果、課題はあるものの、学校長より示された6項目の学校経営方針の指導重点について、全職員が協働して取り組んできたことが分析できる。

人事評価の目標設定、面談等による、指導重点・具体的施策の周知、また、個々の教員の責任や役割分担を明確化し組織運営を重視したこと、行事等における優先すべき教育内容を明確にして取り組んできたことによるところが大きい。これらのことは、目標を明確にすることで、教職員が焦点化された教育活動を進めることが可能となったからであろう。

総括的な評価項目として、「校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか」については、「学校として取り組んでいるか：回答A」、「あなたは取り組んでいるか：回答B」の双方とも全職員が「取り組んでいる（ある程度取り組んでいる）も含む」と評価した。回答平均値については、多くの項目が昨年度より上昇しており、コロナ禍における制限が緩和され、様々な活動に積極的に取り組んだ評価であると考えられる。「あなたは取り組んでいるか」

（回答B）において、回答平均値として昨年度より下がっているものがあるが、様々な取組が可能となった中でもっとできたのではないかと厳しく評価した教員の姿があると思われる。

以下に、「職員による自己評価アンケート」及び参考資料（「生徒アンケート」「保護者アンケート」）より明確となった、指導重点ごとの成果と改善すべき課題について示す。

指導重点（1）「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの推進による確かな学力の向上」

○授業改善に関わって、「課題設定」「見通し」「振り返り」について、新学習指導要領に基づいた「評価」と関連付けた取り組みを行っている。しかし、全授業においてこれらを実施しきれない状況もある。授業改善を目指すための「見通し」を持った授業計画の見直しが課題であろう。自主学習ノートについては、個々の差が広がってしまっており、学習の習慣化が今後の大きな課題となっている。

- ・「目標設定と見通し・振り返りの場面を設定した授業改善」について、学校として「取り組んでいる」自己評価が上がっている反面、自己の取組としては「取り組んでいる」としている評価が下がっている。教職員として全体的な意欲や意識は継続・向上できているが、生徒の実態等、諸処の対応により実施できない様子を見取ることができる。このことは生徒アンケート結果にも表れている。「授業の始めにこの時間に達成する目標がわかっている」と回答した生徒が70%（R4）から78%（R5）と向上していることは、生徒への意識付けについては評価される場所である。しかし、「授業の終わりに自分の目標達成を確認している」と回答した生徒は、53%（R4）から38%（R5）と大きく低下していることは教員の自己評価を裏付けるものである。授業における「振り返り」について改善に取り組む必要があることがわかる。
- ・学力向上策としての学習指導員加配の活用は、特別支援学級での効果だけでなく、通常学級での学習場面においても効果を上げている。特にTTでの学習環境が整うことで、個の特性に合った個別学習場面を、授業において実現できている。
- ・「自主学習ノート」については、小中の連携の中で継続して指導してきた。しかし、学年差、学級内個人差の広がりがみられている状況が課題である。習慣化できている生徒は良いのだが、生じた「個人差」を解消するための学年・学級経営を中心とした働きかけとともに家庭との連携をどのように進めていくかが課題である。
- ・生徒アンケート質問4「わたしは、積極的に手を上げたり意見を言ったりしていると思う。」に対し、7割の生徒が「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答している。授業に臨む姿勢が受け身であり、生徒の「積極性」「表現力」は継続した大きな課題となっている。

指導重点（２）自己実現を図る力を育む生徒指導と心の教育の充実

○全ての職員が学校の教育活動全体を通して、生徒理解と道徳的実践力を身につけさせる指導を行っている。しかし、「学校に行くのが楽しいと思う」という問いに対し、3割近くの生徒が「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答しており、学校生活に対して満足感を得られていない生徒が、昨年より増加している状況がある。生徒理解・個に応じた指導の充実という教育の基本に立ち返り、見直していく必要がある。

- ・全学級で道徳の授業が実践され、キャリア教育の充実や情報モラルの向上等、日常的に「思い遣る心」の育成に向けた指導が教師によって実践されていることが窺える。しかし、生徒アンケートを見ると、友人や教員に対して信頼感を十分に持てない生徒が1割弱から2割弱いるという現実がある。過去数年の状況もほぼ同程度になっている。「生徒理解」の上に立ち、指導方針や内容のPDCAサイクルを地道に行っていくことが重要である。
- ・学校生活の生徒アンケート各質問において、「判断できない」の回答が他項目より多いことは気になる点である。「気にならない」「気付かない」「無関心」なのか「判断力の欠如」であるのかを探る必要がある。

指導重点（３）「自他を守り、命を大切にす健康・安全教育の推進」

○予告なし避難訓練の実施等により、緊急時の避難方法に関する防災意識の向上を図ることができた。今後も継続的・計画的に具体的な方策を持って取り組む必要があると思われる。交通安全指導・安全教育に関わっては、今後も継続的な指導が必要である。

- ・感染症対策について、昨年度までより多くが緩和されているが、集団・個人のスキルとして継承していきたい。
- ・本校は洪水・地震等自然災害発生時には被害想定値の大きい地域であり、さらに交通事故の危険性も高く、防災意識の育成及び安全教育の充実が必要不可欠である。本年度は、「洪水時の避難場所の確認」「地震を想定した引き渡し訓練」「地震及び火災を想定した予告なしの避難訓練」を実施した。自分の判断で避難行動、自助・共助行動がとれるよう、今後も訓練内容の工夫や訓練機会増を検討していく必要がある。

指導重点（４）「自立を育む特別支援教育の体制づくり」

○特別な支援が必要な生徒に対して専門家や関係機関を交えた情報交換を行い、各機関の役割分担の明確化を図りつつ特別支援教育の充実をめざした。授業においても、授業者、特別支援教育支援員、学習指導員の協働体制のもと、1対1の個に応じたきめ細かな指導を行ってきた。また、定期的に特別支援学級を担当する教職員が情報交換会を持ち、どのような関わり方、働きかけ、対応をとっていくのか検討し、指導を明確化していった。さらに、通常学級において学習課題を抱える生徒に対しては、TTでの授業の実施など、きめ細かな対応を可能な限りとってきた。とは言え、個別の支援計画・指導計画に基づく指導と評価については、機会のあるごとに共有していける方策を検討していくなど、教師間の情報交換を一層密にしつつ、さらに改善を図っていききたい。

- ・小規模校である利点を生かし、臨機応変に情報交換の場や校内委員会等を実施し課題の共有や取り組みの改善を図ったことにより、組織的な指導体制を構築することができた。
- ・学校評価項目の「個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか」についての回答では、「学校として取り組んでいるか」の問いに対して、全職員が「取り組んでいる（ある程度を含む）」と回答している（昨年度より向上）。さらに、同項目の「あなたは取り組んでいるか」の問いに対して、「ある程度取り組んでいる」とした回答が昨年度を大きく上回り、生徒の実態に即した指導内容と適切な評価のあり方等について、周知・徹底が進んでいると考えられる。今後も「生徒1人1人の特性の共通理解」「個別の支援計画や指導計画の共有」の上での教育実践や評価のあり方などについて検討を継続していくことが求められる。

指導重点（５）「家庭・考えられる地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化」

○本年度は、ほぼ全てのPTA活動や地域との連携行事（職場体験、小中合同研修会、中道ふれあい祭、地域防災訓練等）を実施することができた。コロナ禍を経ての再開においては、以前の内容そのままに実施するのではなく、内容を検討しながら実施した。保護者の学校行事参加について制限を設けずに機会確保ができ、多くの保護者に生徒の姿や学校の様子を見ていただくことができた。また、学校からの情報発信という視点で、ホームページの更新をこまめに行い、生徒の姿や学校の様子を公開することができた。学校だより及び学年・学級通信の発行とあわせ、情報提供が確実に図られたことも成果としてあげられる。学校だよりについては、今年度も学区地域の回覧を行った。情報発信を通して、家庭・地域との連携を更に推進したい。

- ・保護者アンケート（参考資料）からは、8割以上の保護者が「学校行事へ積極的に参加している（8割強）」「教職員が保護者各種便りで生徒の様子を適切に伝えている（9割弱）」と回答している。昨年度とほぼ同じであり、学校からの情報発信、保護者が来校できる機会での積極的な参加という形で、家庭との連携は十分に図られていると考えられる。
- ・中道地区の小中学校では、従来から3校で協議し、地域の特色を生かした9年間の系統的な教育活動を推進してきた。特に家庭学習とあいさつの習慣化に継続的に取り組んできている。夏季休業中には「小中合同研修会」を開くことになっている。また、令和4・5年度の2か年、青少年赤十字活動研究指定を3校が合同で受けている。今年度は指定2年目であり、公開研究会を開催し、授業公開とともに2年間の研究成果を発表することができた。
- ・家庭学習の平均時間が、1時間以下（「やっていない」を含む）の生徒が40.6%であり、昨年度回答より下がっている。家庭学習(自主学習)の習慣をつけさせるためにも、学習することの意義を考えさせるとともに、小中連携、家庭との連携による取り組みを強化していくことが必要である。

今後の学校運営の方向性について

- 学習指導要領に基づいた教育活動をさらに進め、校内研究活動を中心として「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を推進する。
 - ・授業において、学習目標（ねらい）に対する自己評価や振り返りに重点を置き、生徒自らが学習状況を認知できるよう取り組んでいく。
 - ・生徒の発言力や表現力、文章力、粘り強く学習に取り組む態度等の育成に力を入れる。
 - ・評価方法について常に見つめ直し適切であるとともに生徒・保護者にとって明解な評価を実現していく。
 - ・評価を通して、生徒の学習方法(習慣)の改善や、教員の教科指導の改善を図る

- 1人1台端末の積極的な活用をはじめとして、ICTを活用した「個別最適化した学び」に向けた授業改善を進めていく。
 - ・各種研修会等及びを通し、日々の授業で実践を通して職員のICT活用能力及び活用指導力の向上を図る。
 - ・「eライブラリ」の積極的な活用と授業の中での1人1台端末の有効な活用法について研究を深めていく。また、オンライン授業も効果的に活用していく。

- 生徒指導と心の教育の充実を図る。
 - ・全ての生徒の居場所づくりに向け、道徳教育・人権教育・キャリア教育等、学校の教育活動全体を通して教科等横断的に実践する。
 - ・学級経営を中心に、「集団への指導」と「個に応じた指導」の双方により生徒の発達を支援する。
 - ・個、集団への指導として、「ガイダンス」「カウンセリング」「教育相談」等を効果的に活用する。

- 自立を育む特別支援教育の体制づくりを一層充実させる。
 - ・教職員間の情報交換を密にし、小規模校の特性を生かした指導を行う。
 - ・例えば、「校内委員会」「ケース会議」等を臨機応変に行うことにより、個別の支援計画・指導計画の共有と、合理的配慮の内容見直し等を継続的に行う。その上で、個々の生徒の教育的なニーズを可能な限り把握し、個に応じたきめ細かな指導を推進する。

- 家庭・地域社会・学区内小学校との連携を一層強化する。
 - ・家庭学習が習慣化していない生徒に対して、家庭学習について保護者と連絡確認をしていく。(協力を求めていく)
 - ・課題の提示方法やICT機器の活用を工夫しつつ、自主学習の習慣化に努めていく。
 - ・「学校だより」や「ホームページ」で情報を公開し、連携・協力を深めていく。
 - ・小学校との連携については、3校で確認された事項をもとに、授業規律や生徒指導上の確認事項などを意識して取り組むとともに、情報交換をさらに密にしていく。

学校関係者評価

期 日 令和6年2月26日(月) 16:00~18:00

会 場 笛南中学校 美術室

学校関係者 笛南中学校学校運営協議会委員 10名

中道地区自治会連合会長	中込 敏夫
上九一色地区自治会連合会長	河野 政則
中道地区自治会福連合会長	葉袋 正
中道地区自治会福連合会長	前田 学
学識経験者 元甲府南中学校校長	池谷 淳敬
校区住民 元市川小学校校長	志村 文夫
校区住民 元御坂中学校養護教諭	青木 富貴子
校区住民 前PTA会長	木之瀬 光正
令和5年度PTA会長	佐野 さちえ
令和5年度PTA副会長	伊藤 太一

【 総 論 】

学校長のリーダーシップのもと、全職員が学校経営方針に基づいた学校運営がなされている。特に、特別な支援が必要な生徒に対するきめ細かな学習指導に対する働きかけが、小規模校の特性を活かし、充実している様子が窺える。

一方で、「表現力・積極性の評価が低い」、「内に秘めて感情を出さない子どもたち」が、見られる状況を報告された。学習活動、諸活動を進める中で、生徒の「表現の場・自分を出せる場面」を設定し、学校としての支援及び指導について地道に取り組んで欲しい。

生徒の家庭学習時間についても、保護者とその状況を共有しながら、生徒自ら「学びへの興味」「学びへの意欲」を増進できるよう手立てを考えていって欲しい

【学校運営の状況】

- ◎小規模校の利点を生かし多きめ細やかな指導が為されていることがわかった。職員の同一歩調での指導が重要となるため、引き続ききめ細かで丁寧な指導を続けていきたい。
- ◎今後もこれまでの実践を生かしつつ、子どもたちの育成のために笛南中学校の良さを最大限に生かしていってほしい。

【教職員の指導・管理の状況】

- ◎家庭学習について、自主学習ノート提出について学校側の生徒個々への対応や、全体への支援・指導について質問をいただいた。
- ◎学力の伸びがおもわしくない生徒に対するシステムに工夫を進めて欲しい。
- ◎来年度より、ICT利用における生徒心のアカウントでメール利用が可能となることについて質問やご意見をいただいた。
- ◎学校長が示す学校教育目標及び授業づくりの方針に従って、教職員が日々努力している様子が見受けられるので、今後も組織的な働きかけを継続していただきたい。また、学校として取り組みができることを地道に進めてほしい。
- ◎JRC公開研究会における授業では、生徒の発表においてICT機器を使用した見事な発表を見ることができた。日常における学習活動等の成果であると思う。

学校評価の自己評価において、根拠とした取り組み等の記述まとめ

<p>学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか</p> <p>(下記指導重点を総括して評価する)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標に対して学級経営目標を立て、遂行した。 ・いじめや不登校につながらないよう情報共有に努めている。 ・地域学校保健委員会の計画・実施 ・職員会議で生徒の心身の健康状態について情報共有 ・授業改善に努めている ・ICTの活動と同時に授業の完全を目指す ・情報の共有化 ・生徒指導主事を中心に生徒指導が行われている ・HP等で情報の発信 ・情報の共有化や認め合える職場づくり ・実践、振り返り、課題改善、次の実践というサイクルを、教科や各療育の活動において意識して指導している先生方が多い。 ・指導上の問題などについては複数の教員で共有し、対応しやすい雰囲気がある。 ・小さい学校の利点として、情報共有がすぐにできる。 ・一つ一つの活動において、課題を見つけ改善しようを実行している。 ・日頃から生徒や先生方とのコミュニケーションを大切にしている。 ・ICTを活用しよりわかりやすい授業を目指している。 ・他の職員とコミュニケーションを多く取り、協力しながら生徒指導や生徒理解を行った。 ・先生方の業務軽減を最大限サポートする。 ・学校内にて、生徒が安心安全に学校生活を送れることを最優先にその環境を整える。 ・先生方が生徒と接していない時間やその状況において生徒の行動確認・安全確保に努める。 ・ICT技術の多用 ・いじめの早期対応 ・クラス課題への対応 ・保護者への報連相 ・単元を進めながら1年生の復習を取り入れるようにして、徹底的に総復習(特にポイント)をはじめた。 ・図書館内での生徒の様子に関することを他の先生方と共有する ・学習活動をはじめ諸活動において、生徒が力を発揮できるよう、また生徒の力を伸ばしていけるよう、支援及びその取り組みに力を注いでいるため。
<p>自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見直し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回目標を提示し、小集団も活用しながら授業を展開できた。 ・目標提示や振り返り用紙の活用を行っている。 ・振り返りを必ず書かせている。 ・担任同士、家庭学習ノートに取り組み生徒への家庭学習の習慣作りや授業のポイントをまとめるように工夫している。 ・自主学習にはどのクラスも取り組んでいる。小規模校なので学校全体の動きにしていってもよいかもしれない。 ・自主学習ノート等を活用し、家庭学習を促すことができつつある ・特に小集団の活動に関しては、必ず授業のなかに取り入れるよう心がけた。 ・PDCAサイクルを活用しながら授業改善に努めた。 ・ICT機器の使用や授業に興味を持てるような発問を心がけて授業を行った。 ・理科実験室での実験は安全のため立って行うが、座っている生徒には注意を促すよう心がけている。 ・講義中おしゃべりをしたり、Chromebookを開き授業と関係のない画像を見ている生徒には注意を促すよう心がけている。 ・ポイントノート(その日の授業のポイントをまとめるノート)を毎日提出し、自主学習の時間を確保する。 ・ICTを活用して異文化理解を深めたり、ネイティブの発音を聞いたりして学びの質の向上を目指した。 ・言語活動をもっと有意義なものにしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣が確立している生徒は少数であると思われる。 ・見通し・振り返りを常に意識した授業改善は半数ぐらいである
<p>適切な生徒理解と居場所づくりを進め、「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに、学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とコミュニケーションを積極的にとり、些細な変化に気づけるように努めた。 ・マナーやモラル、危険性について日頃より指導されている。 ・来室時に個別の対応、話を十分傾聴する ・保健室で得られた情報を関係者に情報共有 ・生徒保健委員会での活動 ・リーダーシップを図る教務の先生方の指示等で同一歩調で教育活動にあたることができた ・生徒に「気づき、考え、実行する」意識が少しずつ育ってきているように思われる。 ・JRCの公開をしたことによって、「気づき、考え、実行する」精神が身についてきた。 ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、少しでも過ごしやすい環境をつくれるよう努力した。 ・生徒会活動を中心に、委員会・部活動の活性化を行った。中央委員会や朝集会を実施し、リーダーの育成を図った。 ・生徒に対し、校内での挨拶は自ら先するように心がけている。・保護者の状況(両親・シングル)を情報として持ちながら、生徒に接しているよう心がけている。 ・山梨日日新聞に笛南中の生徒(名前)のことが掲載されている場合は、その日のうちに本人にその話題について声をかけることを心がけている。 ・部活等休日の校外行事については、時間が許せば顔を出すように心がけている。 ・二者懇談を通じて、生徒の心情を理解する。 ・普段の生活だけでなく、生活のあゆみも使い、コミュニケーションを図っている。 ・生徒同士の関係が良好ではなかったときに、道徳で「相互理解」について考える授業をした。普段は考えをあまり表に出さない生徒からも「相手を尊重すること、思い遣ることの大切さ」などの意見が出され、そうした意見に影響を受けて日常で意識する生徒も一部見られるようになった。ただ、持続性がないので、日頃からの言葉遣いや相手に配慮した言動を大切にさせる指導を続ける ・朝読書に読みやすい短編集の本の購入と展示の工夫 ・指導重点に沿った活動を地道に行っている。
<p>安心・安全に関する知識を習得させ、自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に関する知識を習得させる機会を様々に設けている。 ・がん教育の講演会の計画・実施 ・掲示物や保健だよりを作成し、健康意識を高める ・緊急時の体制づくり、個別対応が必要な生徒のマニュアルの作成 ・感染症予防への取り組み ・年度当初の自転車安全点検や交通安全週間など要所で通学指導がきちんとしてきていると思う ・総合的な学習を通じて学習することができている ・保健室からの指導や助言、保健便りなど情報発信していただいている ・公開授業だけに留まらず、スパイラルに学習を積み上げていきたい ・交通安全教室、BOUSAI 教室、がん教育、薬物乱用防止教育など毎年計画的に行っている。 ・SDGs については総合的な学習の時間や各領域の活動で取り組むことができた。 ・SDGs の取り組みを行い、持続可能な地域のことを考えることができた。 ・手洗いうがいなどの声かけを日常的にした。 ・防災訓練の際、明確な時間を告げずに行うのは非常に良かったと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で体カトレーニングを取り入れたり、体育的行事を運営したりした。 ・安全管理について、場面ごと生徒達に指導を行った。 ・完全下校前に下校する生徒（3年生・部活に入っていない生徒）について校門にて安全確認を行っている。 ・完全下校後、お迎え待ちの生徒には保護者が迎えに来るまで寄り添うよう心がけている。その際、生徒と雑談をしコミュニケーションを図るようにしている。 ・自転車下校している生徒には、その場でヘルメット・ライト等注意喚起を行っている。 ・SDGsに関しては各班がプレゼンテーションを行い、JPG 公開でも活かした。 ・図書館内での SDGs コーナーの設置 ・指導重点に沿った活動を地道に行っている。
<p>個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の取出しの授業、特別支援の自立など個別に対応した授業が行われている。 ・多くの先生方が特別支援学級の生徒に関わっていただき感謝しています。また、週一回のミーティングも情報交換に留まらず、支援の方法について共通理解を図ることができている ・毎週連絡会議を設け、一人一人の生徒の様子を細かく情報交換し、個に指導ができるよう配慮している。 ・支援学級の先生に任せてしまうことが多かった。 ・支援学級の生徒については、日々の状況を田村先生・飯塚先生に伺い、その情報を考慮しながら生徒に接するよう心がけている。 ・振り返りに対して、個人に返信 ・ユニバーサルデザインを意識した板書を心がけている。 ・個別の支援計画、指導計画をもとにした支援等を行っている。しかし、その成果や課題を共有が不足している。
<p>家庭や地域との連携、小中連携を進め、開かれた学校づくりを推進しているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡りでは多くのことを学び、地域の方ともコミュニケーションを図ることができた ・地域に根差した探求が行われている。 ・地域住民、保護者が積極的に学校に協力してくれる関係が構築されている。 ・保健だよりを作成し、保健に関する情報提供 ・地域学校保健委員会の開催 ・校長先生をはじめ、開かれた学校づくりになるための方策を考えてくださっています。ありがとうございます。私自身も努めていきたいです。 ・家庭との連絡を密に取ることを心がけた。 ・三者懇談受付時、保護者に対し声かけをしてコミュニケーションを図るよう心がけている。 ・生徒のお迎えに来る保護者には声かけをしてコミュニケーションを取るようになっている。 ・よりよい中道のためにできることを考える。 ・主権者意識を高めるため、学級役員決めや生徒会選挙の際に声かけをした。実際の選挙を見据えて、学級役員決めの際にも投票箱を用意して実践している。 ・図書館内での郷土資料コーナー設置 ・各種の「便り」やHP等で定期的に学校情報を発信している。 ・学校運営協議会発足初年度であり、効果的な機能は今からである。

改善すべき内容や意見

<p>学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい学校だからといって急な変更が多かった。先を見通すことが大切だと思う。 ・全職員が同じ共通認識を持って取り組んでいけるように、教職員間の情報共有が大切だと思う。また、見通しの持った計画をすることで、より教職員全体で動きやすくなると思う。 ・協調性のある職員集団だと思います。 ・来年度からは積極的に動けるようにしたい。 ・教材研究の時間をもっととれるようにしたい。 ・大規模校に比べ小規模校は、運営・指導において先生方一人あたりの役割等が増加し、負担加重が考えられる。スクールサポートスタッフとして、先生からの業務依頼のみならず常にアンテナを張り、気がついたことは積極的に業務軽減に向けてサポートしていきたい。 ・JRC などを含め、小中の連携がなされていると感じる。 ・教育課程に関し、年1回でなく複数回の検討機会を設け、次年度に臨むようにしたい。
<p>自主学习ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見直し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りがあまりできなかった。(個人) ・振り返りの内容として、どのようなものが次の学びにつながるのか考えていく必要がある。 ・学ぶことの意義をもっと考えさせたい。 ・⑤がどれだけ声かけをしてもうまくいかなかったので、どうしたら家庭学習を習慣づけることができるのか考える必要がある。 ・理科の授業において、石倉先生は冒頭に教育教材「Kahoot」による振り返りクイズを実施。全員がクイズの楽しさを実感し、積極的に回答を導く様子が十分伝わるとともに、この方法を実施することで、授業スタート時から真剣に取り組む雰囲気作りが出来ていると感じる。2年生は1組と2組で授業への取り組み姿勢・雰囲気が異なる。1組はプリントを比較的一人で回答するが、2組は一人で回答を導けない場合、教え合いながら回答する姿勢が感じられる。しかし先生の講義中にChromebookを開き、授業に関係ない画像(ゲーム等)を見ている生徒がおり、他の生徒に影響が及ぶケースもある。授業中は先生が「Chromebookを開いていい」と許可をしない限りは、閉じるというルール作りが必要かを感じる。 ・望月先生に単元活動や試験に関するアドバイスなどをいただき、指導に活かしている。 ・小学校と連携した家庭学習の習慣化を図る取組を行う。
<p>適切な生徒理解と居場所づくりを進め、「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに、学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間での共有をすることができなかった ・生徒の多様性が進む中、個々の実態(不登校など)に応じた進路指導に難しさが生じていると感じている。 ・気になる生徒についてはその都度情報共有をし、全校で対応することが必要になる。職員会議等に参加していない教員にも情報共有や情報交換をしていきたい。 ・SNSの正しい使い方については家庭との共通理解の上で、きちんと指導していく必要があると思う。 ・学校全体として様々な活動や取り組みを実施しているが、生徒達にきちんと伝わり、道徳心やなどが育っているかということに疑問が残った。 ・先生方が発行する「学級通信」には生徒指導と心の教育が込められており、学級経営での生徒とのコミュニケーションツールに重要な役割を果たしていると感じる。ある学級通信は、手書きという手法と生徒目線にハードルを落としたフランクな言い回しで思春期まっただ中の生徒の心情に寄り添った内容が多く心に刺さる。そしてこの思いをもって指導することが生徒の人間力向上成長に繋がると感じる。 ・笛南中では生徒会を中心に挨拶を徹底している。大きな声で挨拶や返事ができればお互い気持ちよく、相手との距離感が縮まる。その意味で「先言後礼」という伝統は大人になっても必ず役に立つ。社会人になった時のマナーは中学時代の教育指導が最も重要と感じる。そこで、挨拶以外のことも伝えた

	<p>い。「時を守り、場を清め、礼を正す」時間を守ること、掃除をすること、挨拶や返事をしっかり行い、礼儀正しく行動すること。自分を含め大人でもこのことが出来ていない人を見かる。「時を守る」は時間を有効に使う、「場を清め」は自身の身だしなみも含むと拡大解釈できる。「時を守り、場を清め、礼を正す」を中学の時に身につけていくことは大変重要と感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から石井先生と情報共有をし、生徒を観察して、二者懇談につなげた。 ・早急な結果を求めるのではなく、継続した着実な取り組みとして進める。
<p>安心・安全に関する知識を習得させ、自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の下校時間では、帰り道暗くて怖いという意見が生徒や親からでていたので、配慮していく必要があると思った。 ・避難訓練のように、実際の場面を想定したシミュレーション訓練は重要である。緊急時の対応について、教職員を対象にしたシミュレーション訓練をしていきたい。 ・教師自身が防災訓練の際危機感がなかった。本当に何かが起こったとき対応できるのか自信がない。反省している。 ・桑葉祭体育部門ブロックによる他学年との縦の交流、がん教育講習による疾病への知識と健康への意識向上、避難訓練による自身の安全行動への意識、SDGs 取り組みによる人間・環境への配慮等、生徒一人一人が命を大切にする指導を、多方面からの方法で醸成出来ていると感じる。生徒自身が、やらされ感と捉えるではなく、自分事化に気付くことがポイントと感じる。 ・細かい点にはなるが、自転車利用において、駐輪場でのカギのつけっぱなし、ヘルメットの正しいかぶり方が出来ていない、あご紐のたるみ、整備不良によるライト無灯、プライベート時でのノーヘルメット等、自らの命、安全教育の更なる指導徹底が必要であると感じる。 ・薬物乱用防止教育、SNS のトラブルや使用方法に関して学年で学ぶことができた。 ・定期的な避難訓練が実施されることで、生徒の防災意識が高まってきていると思う。 ・訓練日時を定めずに行う防災訓練も複数回行う。
<p>個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育計画」をしっかりと読み込むことができなかった ・個別の教育支援計画をきちんと把握した上で、関わっていきたい。 ・教員の人数が少ないこともあり、1人1人をみて適切な指導を行うという事は難しかったように思う。 ・支援学級、通常学級で支援が必要な生徒は、一年時からステップアップに必要な対応が常に求められ、義務教育終了後の進路は、その子の人生が左右するといっても過言ではないと感じる。そのような生徒の中には、一つのことに長けている子がおり、その長所を本人の強みと捉え、今後の進路（人生）に役立つ指導をしていくことが、本人の将来を一層前進させるのではないかと感じる。 ・特支担当の先生方と支援学級生徒の情報を共有し、その都度支援を考え、振り返っている。 ・ケース会議などの場の設定
<p>家庭や地域との連携、小中連携を進め、開かれた学校づくりを推進しているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HP をこまめに更新してくださっていた ・地域の小学校や地域の組織といろいろな活動を有機的に実践している。 ・安心メールやホームページなどで積極的に情報提供をしてくださり、ありがたかった。 ・地域学校保健委員会など、小中が連携した取り組みを継続できるものは継続していきたい。 ・学級通信をあまり出せなかった。 ・行事や授業などを地域に公開していくことも必要かと思われる。 ・笛南中の強みとしては、116名の小規模校で3世代同居の割合が高い昔からの居住地域が多く、各家庭は学校教育や学校行事等に理解が深く、地域との連携が取りやすい環境にある。とはいえ昨年度まではコロナ禍もあり、開かれた学校づくりの推進が難しかったが、本年度においてはあらゆる連携が推進されたと感じる。上記、笛南中の強みを生かした取り組みを行ったら

	<p>どうかと。連携という点で、具体的には、JRCで2学年が取り上げた持続可能な地域再発見について、甲府南部地区で働いている方の取り組みを「出前授業」等の実施により、将来、甲府南部地区の発展に興味を持ち寄与出来る人材が育つのではないかと感じる。生まれ育った地域愛は義務教育の中学までは意識が高いと思うが、高校に進学すると新たな環境に染まり、地元地域の発見や興味が薄れるのではないかと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の活用を推進する。
<p>今日的な教育課題への対応を具体的に進めているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研では多くの学びがあった ・主体的な学びを授業の中で推進できている。 ・校内研究など、それぞれの立場でできることを継続していきたい。 ・全教員で協力して、JRCの公開に臨めた。 ・笛南中内での解決は難しいと思うが、山梨県で推進している25人学級については、学校の規模により人数設定に余裕を持たせるべきと感じる。特に1学年1～2クラスの小規模校（笛南中）は生徒が1名移動（転校）するだけでクラス編成の変更を余儀なくされるケースが生じる。

令和5年度 学校評価 自己評価の数値集計表 年間比較

	R4集計						R5集計						増減								
	0	1	2	3	4		0	1	2	3	4		0	1	2	3	4				
	平均値	平均値のA-B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	平均値	平均値のA-B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	取り組んでいる	平均値	平均値のA-B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	取り組んでいる	
A 学校として取り組んでいるか	学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか (下記指導重点を総括して評価する)	3.7	0.4				3	8				2	12	0.1	0.3	0	0	0	-1	4	
	自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見直し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	3.5	0.2				6	5			1	3	9	0.2	0.5	0	0	1	-3	4	
	適切な生徒理解と居場所づくりを進め、「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに、学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	3.3	0.3				8	3				3	11	0.5	0.4	0	0	0	-5	8	
	安心・安全に関する知識を習得させ、自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	3.3	0.4	2		1	4	4				3	11	0.5	0.2	-2	0	-1	-1	7	
	個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立に向けた支援の場面を設定しているか	3.3	0.6			1	6	4				3	11	0.5	0.4	0	0	-1	-3	7	
	家庭や地域との連携、小中連携を進め、開かれた学校づくりを推進しているか	3.3	0.6			2	4	5				5	9	0.4	0.1	0	0	-2	1	4	
B あなたは取り組んでいるか	学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか (下記指導重点を総括して評価する)	3.4	0.4			1	5	5				11	3	-0.1		0	0	-1	6	-2	
	自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見直し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	3.3	0.2			1	6	4			2	10	1	-0.3		0	0	1	4	-3	
	適切な生徒理解と居場所づくりを進め、「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに、学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	3.0	0.3	1		1	8	1				12	2	0.1		-1	0	-1	4	1	
	安心・安全に関する知識を習得させ、自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	2.9	0.4	2		4	2	3			2	8	4	0.3		-2	0	-2	6	1	
	個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立に向けた支援の場面を設定しているか	2.7	0.6	1		5	3	2			4	7	2	0.1		-1	0	-1	4	0	
	家庭や地域との連携、小中連携を進め、開かれた学校づくりを推進しているか	2.7	0.6	1	1	2	6	1			1	12	1	0.3		-1	-1	-1	6	0	
	令和4年																				
	3.4	回答数A	2	0	4	31	29														
	3.0	回答数B	5	1	14	30	16														
	令和5年																				
	3.7	回答数A	0	0	1	79	76														
	3.0	回答数B	0	0	9	60	13														
	増減																				
	0.4	回答数A	-2	0	-3	-12	34														
	0.1	回答数B	-5	-1	-5	30	-3														

生徒・保護者のアンケートの分析

1 生徒のアンケートから

①授業と学習について（全10項目）

<肯定的な回答が80%以上の項目>

- ・質問1 「授業前に勉強用具を準備していると思う。」
- ・質問5 「授業ノートに書いていることは・・・。」
- ・質問10 「クロームブックの活用法を理解し、学習の時に有効に活用している。」

<肯定的な回答が60%以下の項目>

- ・質問4 「私は、積極的に手を上げたり意見を言ったりしていると思う。」
- ・質問7 「私は、授業の終わりに自分が目標を達成できたか確認していると思う。」
- ・質問9 「400字原稿用紙で2～3枚くらいの作文は書けると思う。」

<数値には表れないが心配な項目>・・・昨年度から減少が大きい

- ・質問3 「授業で話し合いや自分の考えをまとめる活動が多いと思う。」
- ・質問8 「授業で学んだことは社会に出てから役に立つと思う。」

<考察>

昨年度と比べると、授業に対する肯定的な回答数は3項目と変化はない。しかし、消極的な回答が2項目より3項目に増えている。昨年度も5割程度であった「授業の終わりに自分が目標を達成できたか確認している」生徒の割合が4割弱とさらに下がっている状況である。授業計画の修正との授業改善を行い、「振り返り」を着実に、「何を学んだか」の意識付けを確かなものにするべきである。消極的・否定的な回答として加わってしまったものは「作文を書けると思う。」であり、文章力や表現力に不安を持っている様子が見られる。本校の課題である「発言力や表現力関わる能力育成」については、授業改善における継続した指導が求められる。

②家庭学習について（全4項目）

<肯定的な回答が80%以上の項目>

- ・質問13 「定期テスト前の学習をしていると思う。」

<肯定的な回答が60%以下の項目>

- ・質問11 「宿題を必ずしていると思う。」
- ・質問12 「自分から家庭学習をしていると思う。」

<数値には表れないが心配な項目>

- ・家庭学習を、1日平均1時間以下またはしていないと回答した生徒の割合＝40.6%。

<考察>

「家庭で必ず宿題をしている」が56.6%と昨年度59%と比べてさらに下がってしまった。家庭学習が定着している生徒とそうでない生徒の差がさらに広がっている状況とも言える。特に、家庭学習を1日平均1時間以下またはしていないと回答した生徒の割合は、令和3年度までは徐々に減少傾向にあったが、令和4・5年度と2年連続で増えている。自主学习ノートへの取り組み、学習用端末の持ち帰り等を通して、家庭学習の習慣化に取り組んでいく必要がある。

本校では、学区内に笛南中学校区地域課題研究会（笛南中・中道北小・中道南小）を設置し、情報交換や同一の取組・研修等を実施し、9年間の義務教育を見通す中で児童生徒の育成を図っている。家庭学習の定着についても、数年前より「自学ノートの実践」を小中合同で進め一定の成果を上げてきた経緯があるが、ここに来て「1日の家庭学習時間が1時間以下・していない」生徒が大幅に増えている状況から、学習に意義や、将来へのビジョン等をすべての生徒に考えさせ、自分の進路設計とあわせた学習習慣を身につけさせる必要がある。授業改善と連動させながら、全ての生徒が家庭学習を定着させられるよう、家庭との連携を密にしながらい指導の工夫・改善を図っていききたい。

③学校生活について（全6項目）

＜肯定的な回答が80%以上の項目＞

- ・昨年度5→本年度3

＜肯定的な回答が60%以下の項目＞

- ・昨年度0→本年度1

＜考察＞

ほぼ全ての項目において肯定的な回答が80%を越えていた昨年度の結果からすると、全体的に肯定的な回答が下がっていることから、学校生活へ何らかの不安を持つ生徒増えている様子が窺える。特に「学級で悪口やいやなことを言ったり言われたりすることがないと思う。」については肯定的回答が77%（R4）から57%（R5）と大きく下がっていることは、今後の大きな課題である。今まで以上に注意深く子どもの様子（変容）を見守るとともに、学級経営を中心とした集団づくりに力を入れていく必要がある。また、個に応じたきめ細やかな指導を継続して行っていくことが重要であると考えられる。

④家庭生活について（全5項目）

＜肯定的な回答が80%以上の項目＞

- ・質問24 「家族とたくさん話をする機会があると思う。」

＜肯定的な回答が60%以下の項目＞

- ・昨年度0→本年度0

＜数値には表れないが心配な項目＞

- ・昨年度より肯定的な回答が下がっている項目4

＜考察＞

家族との会話の機会が多く、良好な家族関係が築けており、家庭生活が安定している様子がうかがえる。

しかし、他の全ての項目において昨年度より肯定的な回答は減っており、家族と話しはするが、家庭における「自主的な動き(活動)」「家族の一員である意識」という面で課題を感じる。「自己肯定感」を育成していくとともに、集団の一員としての存在意義や責任感等に関する心の育成が必要であると考えられる。

＜総括＞

全25のアンケート項目の内、8項目において80%以上の肯定的な回答を得られた。昨年度と同数であるが、過去数年の状況と比較すると減少している。一方、肯定的回答60%以下の項目は増加しており、60%以下ではないが肯定的回答が減少している項目もある。この結果を真摯に受け止め、今後、本校にとって大きな課題として具体的な指導重点を定める必要がある。

アンケート回答からは、普段の様子からは察しにくい、今の生活(家庭、学校、集団…)への充実度や所属意識、自分の存在意義等に対する不安感があると感じられる。そのような状況にある生徒に対し、将来に対する目標や自己肯定感・自己充実感を持たせるためのきめ細やかな支援や指導、働きかけを工夫していく必要がある。

細かい点を見ると「学習の振り返り」「表現力」「粘り強さの育成」などについては、育成すべき生徒の資質・能力に関する授業づくりに力を入れ、一歩も二歩も進んだ働きかけが必要である。

学校としての支援力・指導力の向上を目指すとともに、生徒一人一人の実態に合わせたアプローチを検討・模索しつつ、日々の教育活動において実践し、今後の学校運営に生かしていくことが重要である。

2 保護者のアンケートから

① 学校を訪問した、または参加・協力した行事等について（全10項目）

<肯定的な回答が80%以上の項目>昨年度7項目→本年度6項目

- ・質問1 「私は、学校行事に積極的に参加していると思う。」
- ・質問2 「私は、子どもの生活リズムに気をつけ規則正しい生活をさせていると思う。」
- ・質問3 「私は、子どもに中学生としてふさわしいマナーなどを指導していると思う。」
- ・質問4 「私は、何事も子どもが自分でやり遂げられるように支えてあげていると思う。」
- ・質問5 「私は、思春期の子どもの心に寄り添い励ましていると思う。」
- ・質問9 「私の家庭では、子どもの将来のことについて話す機会がよくあると思う。」

<肯定的な回答が60%以下の項目>

- ・昨年度0項目→本年度0項目

<数値的には現れないが心配な項目>

- ・質問10 「子どものネット利用やスマホ利用についてルールがない。」30%程度
- ・質問7 「机や周辺の整理整頓ができていない。」40%程度
- ・質問8 「自主学習の取り組みに協力していない。」40%程度

<考察>

アンケートの結果から各家庭で、中学生としてふさわしい生活の仕方や必要なルールやマナーにいて会話を交わし、親子のコミュニケーション並びに熱心な社会教育がなされていることが視える。また、生徒の支えとなり寄り添い励ましている様子が図られていることが視える。

一方で、ネットやスマホの利用状況、机や周辺の整理整頓、家庭学習に対する保護者の関わりという点に課題が見られる。家庭環境が学習成果を左右し、重要性も高いことについて、家庭との連携を図りつつ、同一歩調で改善していく必要がある。

② 学校生活・家庭での姿について（全4項目）

<肯定的な回答が80%以上の項目>

- ・質問11 「私は、子どもが学校に行くことを楽しみにしていると思う。」
- ・質問12 「私は、子どもが集団生活に必要な決まりやマナーを守っていると思う。」

<肯定的な回答が60%以下の項目>

- ・昨年度0→本年度0

<考察>

多数の生徒が学校でのびのびと、生き生きと活動し、集団生活において大切な決まりやマナーを守りつつ、楽しく活動していることが視える。一方で、楽しみを見いだせない生徒がいることも明らかである。また、学習に対する意識や意欲の面に課題がある。今後も、継続して個に応じたきめ細やかな指導を行うことが必要である。

③ 教職員の生徒および保護者との関係について（全5項目）

<肯定的な回答が80%以上の項目>

- ・質問15 「教職員が生徒への声かけを大切にし、生徒理解に努めていると思う。」
- ・質問16 「教職員が保護者とともに子供の成長のために協力してくれていると思う。」
- ・質問18 「教職員が保護者とともに子供の成長のために協力してくれていると思う。」
- ・質問19 「教職員が保護者に各種便り等で生徒の様子を適切に伝えていると思う。」

<肯定的な回答が60%以下の項目>

- ・昨年度0→本年度0

<考察>

全体的に肯定的な回答となっているが、数値的な結果に満足することなく課題解決を継続することが重要である。また、保護者と学校の連携した生徒への支援や指導となるよう、保護者と学校のよりよい関係を作ることがより意識していくことが重要である。

特に、「個々の生徒への対応」「学校生活の様子の情報提供」など、保護者と学校がともに生徒の成長を支えていると保護者に実感してもらえるような働きかけを継続していく必要がある。

学力の定着を図る指導法の工夫については、今年度も、他の項目に比べると数値が低くなっている。全生徒の学習・学力の保障を実現するため、指導方法や指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実をさらに図っていくことが求められる。あわせて、学校による丁寧な対応と説明責任を十分に果たすことで保護者の信頼を得られるよう心がけること、そのためにも教職員の資質・能力の向上を進めることが重要であることを再認識することが重要である。

○先生方と生徒のつながりをとても大事にしていると思います。また先生方からいただく言葉にも思いやり等感じられ本当に感謝しています。

○いつもありがとうございます。プログラミングの授業が始まっていると聞き、子供達の可能性が広がりとても嬉しいです。 リモート授業が早く普及するのいいと思います。

○いつもありがとうございます

○今は特に無いです。

○先生と生徒、学校と家庭の風通しは良いと思います。いつも丁寧な対応をしていただきありがとうございます。

○いつもご指導ありがとうございます。これからも宜しくお願いします。

○いつも子どもたちのためにありがとうございます！

●家庭学習の課題をタブレット以外で出して頂けるとありがたい。タブレットの持ち帰りが多く、家庭でルールを作っても、制限できないので余計なものを見ている時間が長い。

●先生方も含め保護者への負担が少しでも少なくなる地域、外部の人に協力を仰ぐ様な工夫に心がけてもらいたい

●感染症で休んだ時に、一度も担任から連絡がなかったのはとても残念でした。しばらく学校を休むことになったので、学校での様子や予定が分からずに、子どもも不安がっていました。連絡をいただけるとありがたいです。

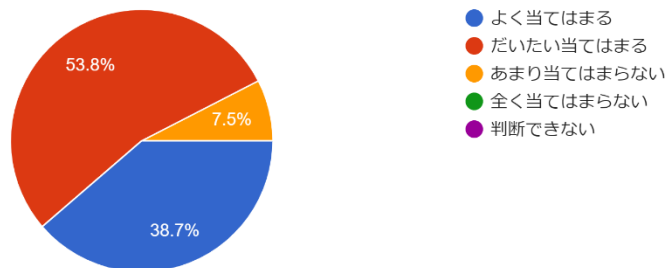
●見放されている感じがします

●中学生になり親との関わりが難しくなってきた中で学校での様子はなかなか把握しづらい その中で親と教員となるとやり取りが一層難しく感じる コロナや少子化で行事なども縮小されて 学校に関わる事がなくなったのも要因の一つのように思う

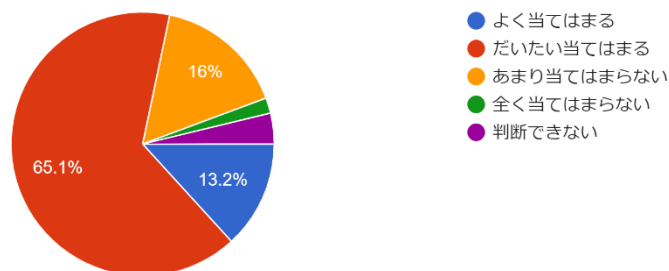
学校評価 生徒用アンケート

◆授業と学習についての質問です

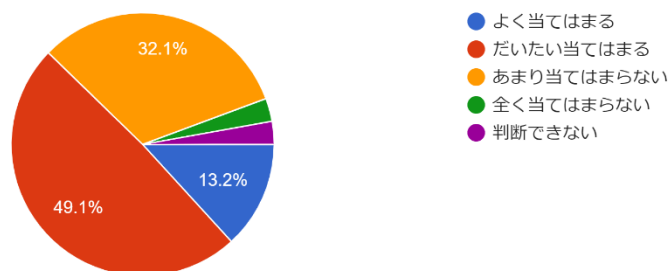
質問1 わたしは、授業前に学習用具を準備していると思う。



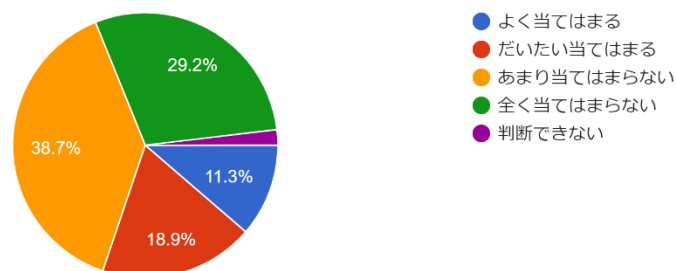
質問2 わたしは、授業の始めにこの時間に達成する目標がわかっていると思う。



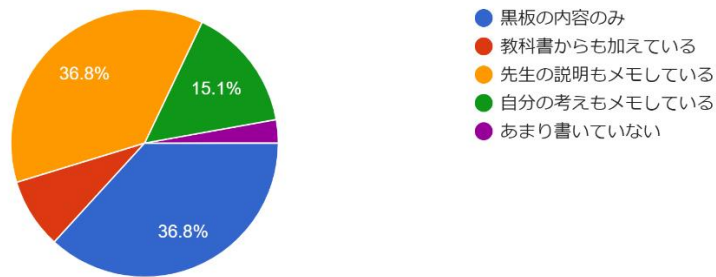
質問3 わたしは、授業で話し合いや自分の考えをまとめる活動が多いと思う。



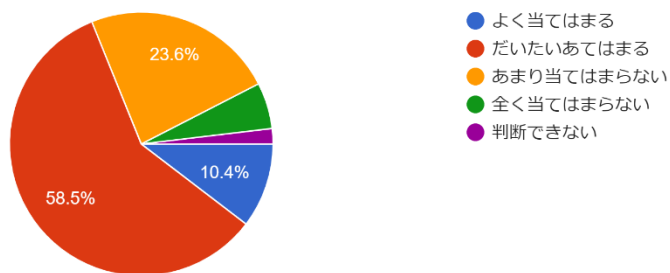
質問4 わたしは、積極的に手を上げたり意見を言ったりしていると思う。



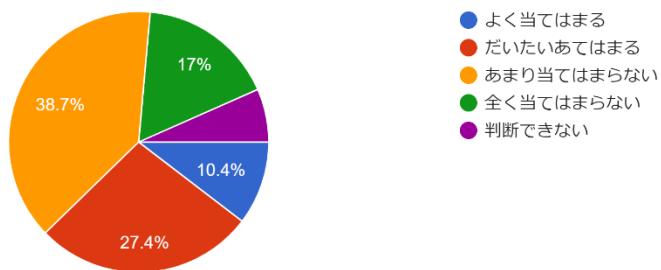
質問5 わたしは、授業ノートに書いていることは



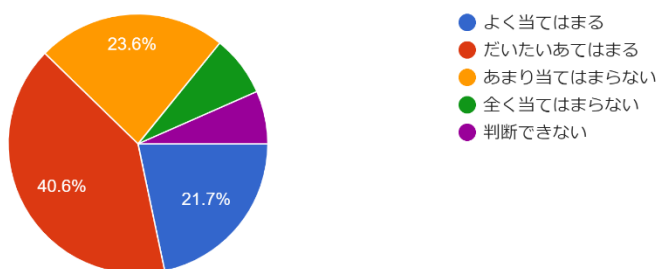
質問6 わたしは、難しいことでもあきらめずに取り組んでいると思う。



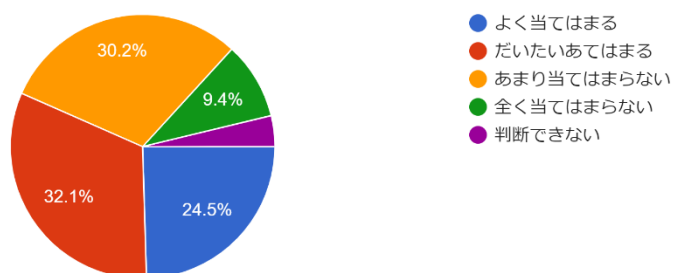
質問7 わたしは、授業の終わりに自分の目標を達成できたか確認していると思う。



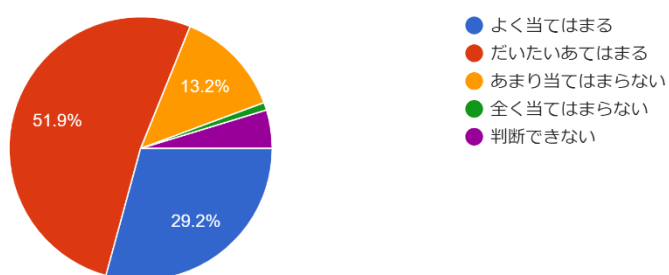
質問8 わたしは、授業で学んだことは社会に出てから役に立つと思う。



質問9 わたしは、400字原稿用紙で2～3枚くらいの作文は書けると思う。

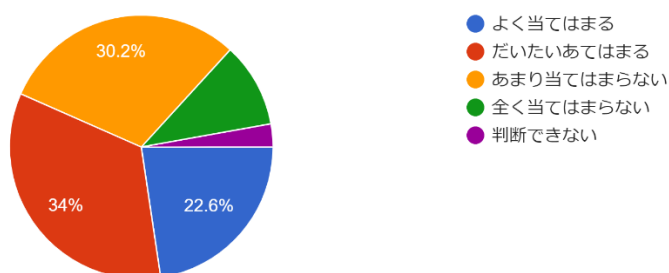


質問10 わたしは、クロームブックの活用法を理解し、学習の時に有効に活用していると思う。

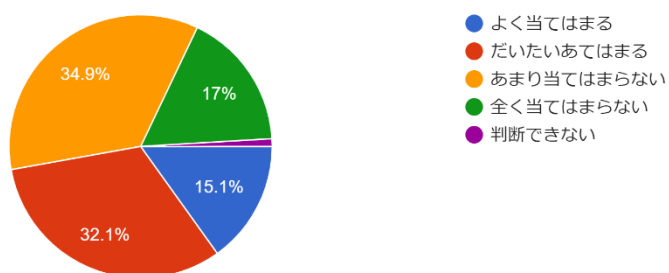


◆家庭学習についての質問です

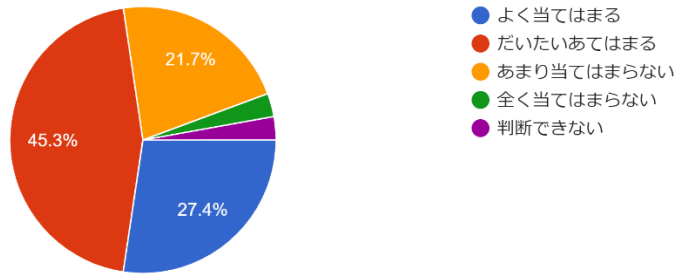
質問11 わたしは、家庭で宿題を必ずしていると思う。



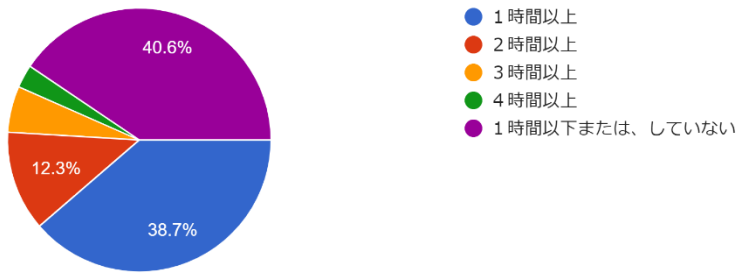
質問12 わたしは、自主学习ノートなど、塾以外に自分から家庭学習をしていると思う。



質問 1 3 わたしは、定期テスト前の学習をきちんとしていると思う。

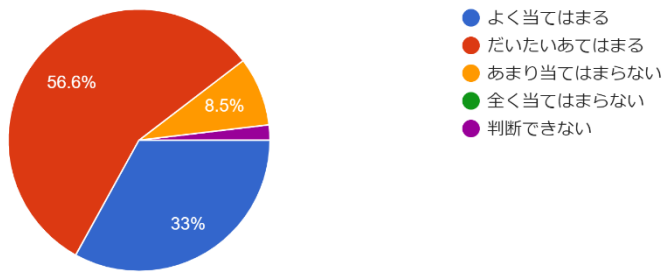


質問 1 4 わたしは、家庭学習を1日平均これくらいやっていると思う。

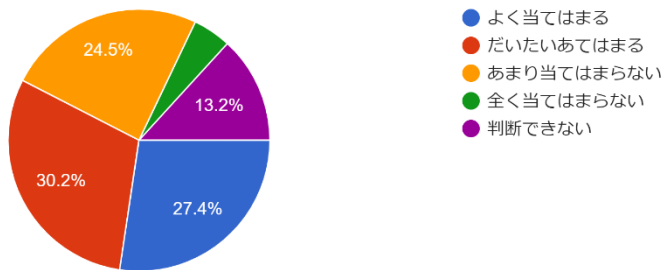


◆学校生活についての質問です

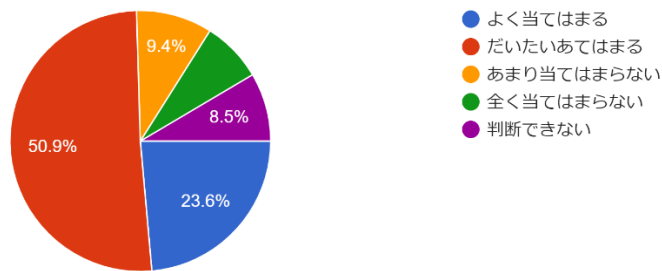
質問 1 5 わたしは、学級での係や清掃分担で良い仕事になるように取り組んでいると思う。



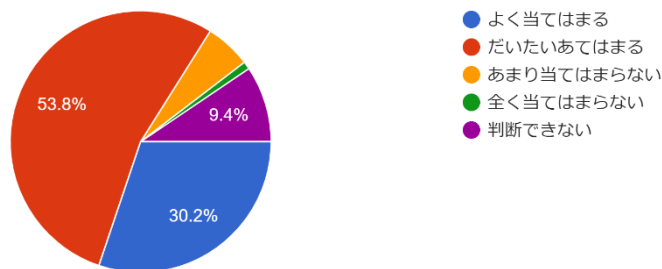
質問 1 6 わたしは、学級で悪口やいやなことを言ったり言われたりすることがないと思う。



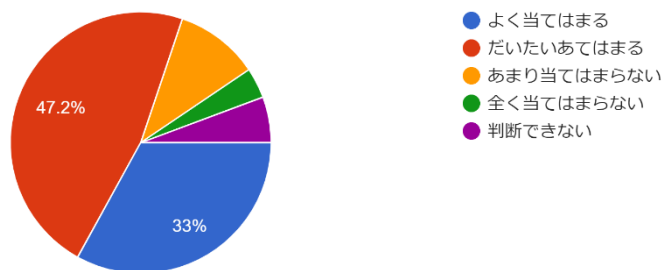
質問 17 わたしは、うそをついたり自分だけが得するようなことをしないようにしていると思う。



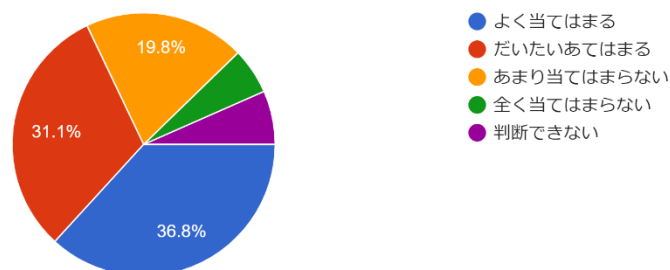
質問 18 わたしは、困っている人やできない人に協力したり助けたりしていると思う。



質問 19 わたしは、困ったことがあっても先生が助けてくれたり助言してくれたりすると思う。

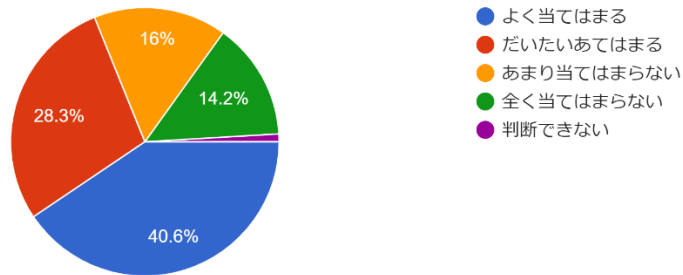


質問 20 わたしは、学校へ行くのが楽しいと思う。

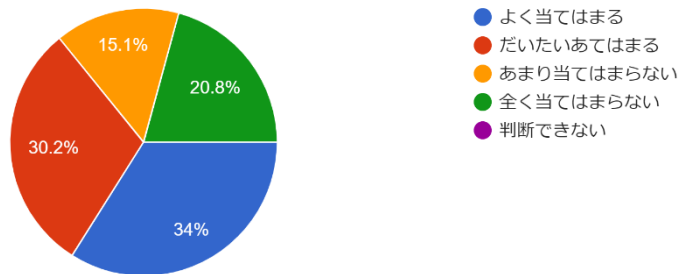


◆家庭生活についての質問です

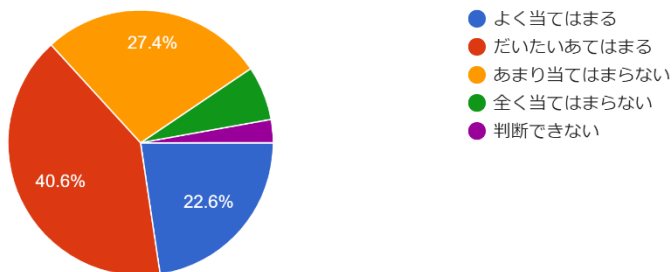
質問 2 1 わたしは、家庭でいつも明日の学習の準備をしていると思う。



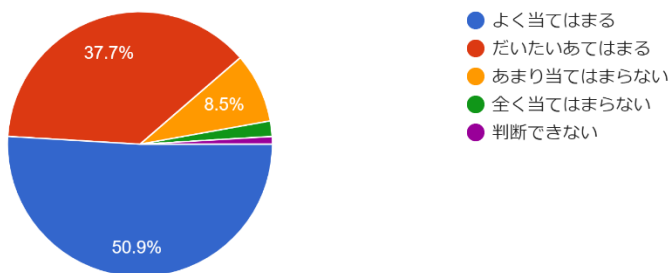
質問 2 2 わたしは、毎朝自分で起きていると思う。



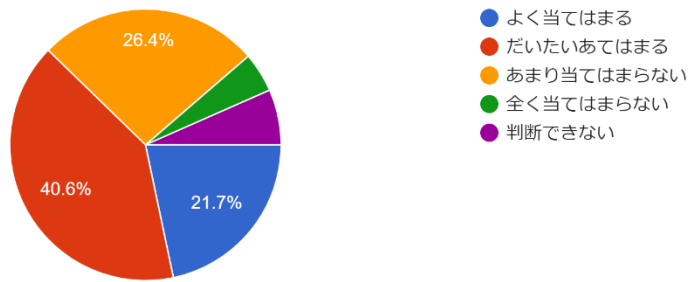
質問 2 3 わたしは、家族の一員として手伝いや仕事をしていると思う。



質問 2 4 わたしは、家族とたくさん話をする機会があると思う。



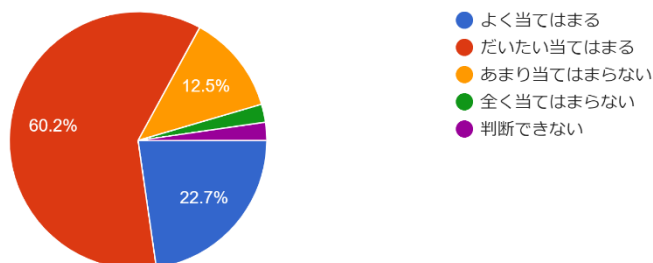
質問25 わたしは、両親にほめられることが多いと思う。



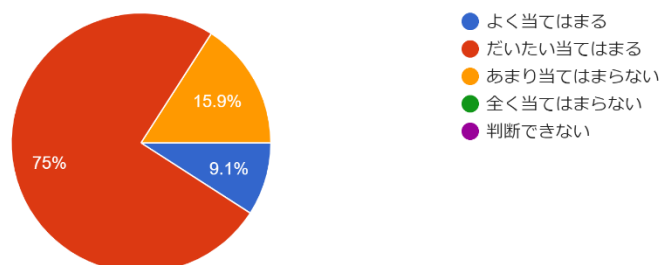
学校評価 保護者用アンケート

◆今年度、学校を訪問された、または参加・協力した行事等について回答してください。

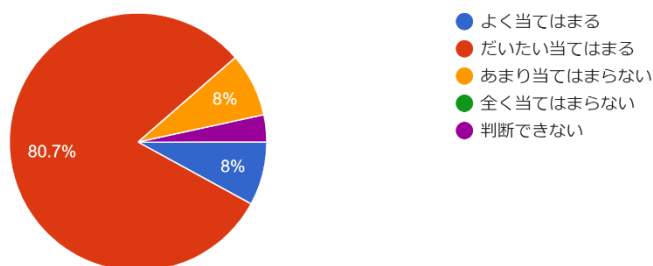
質問1 私は、授業参観等の学校行事に積極的に参加していると思う。



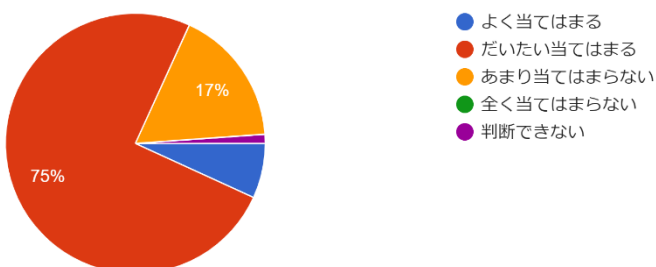
質問2 私は、子どもの生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をさせていると思う。



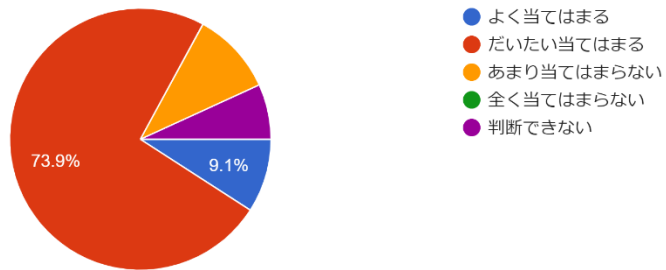
質問3 私は、子どもに「中学生としてふさわしいマナー」などを指導していると思う。



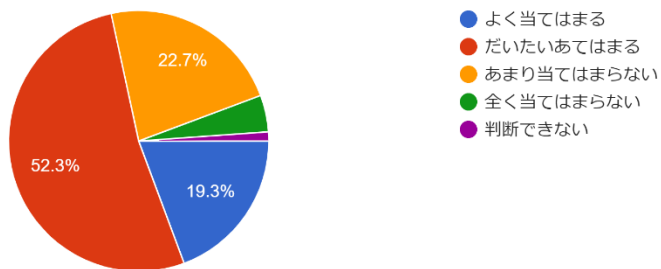
質問4 私は、子どもに対して何事も自分でやり遂げられるように支えてあげていると思う。



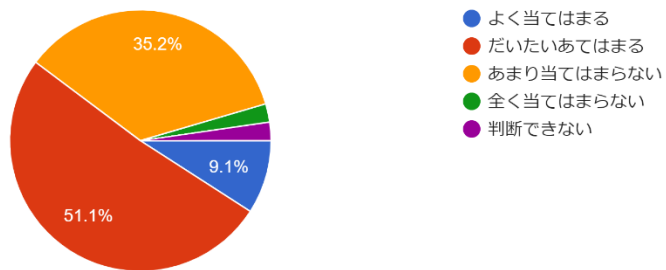
質問5 私は、思春期の子どもに寄り添い、励ましていると思う。



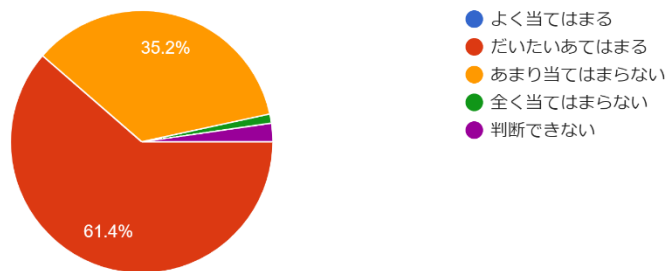
質問6 私は、地域で生きる子どもとして積極的に地域行事へ参加させていると思う。



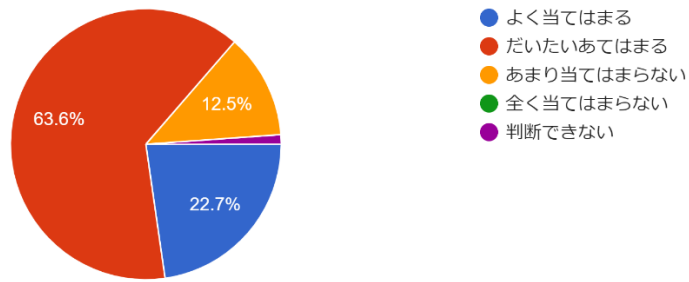
質問7 私は、子どもが学習に集中できるように、机や周辺の整理をさせていると思う。



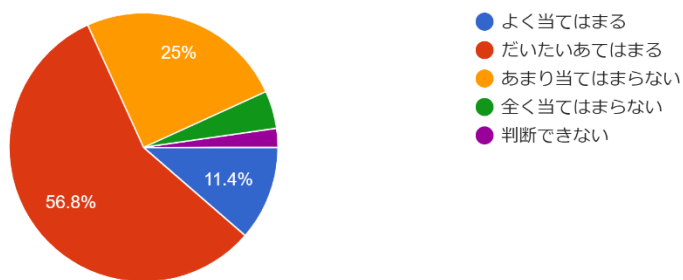
質問8 私は、学校の自主学習の取り組みについて協力して励ましていると思う。



質問9 私の家庭では、子どもと将来のことについて話す機会がよくあると思う。

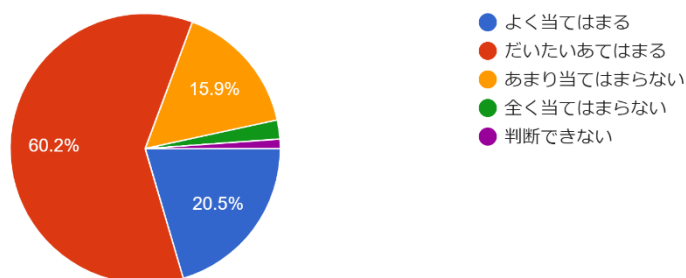


質問10 私の家庭では、子どものネット利用やスマホ利用についてのルールがある。

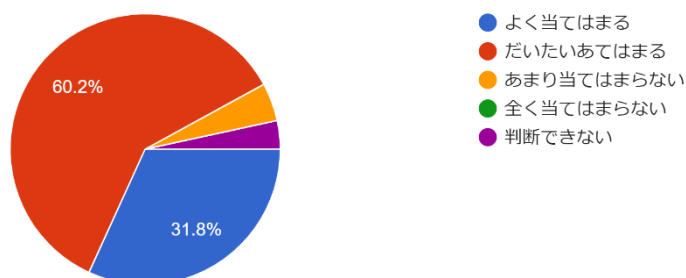


◆生徒の学校生活・家庭での姿を見てご回答ください。

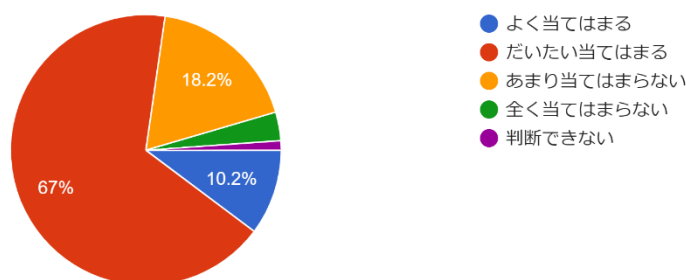
質問 1 1 私は、子どもが学校へ行くことを楽しみにしていると思う。



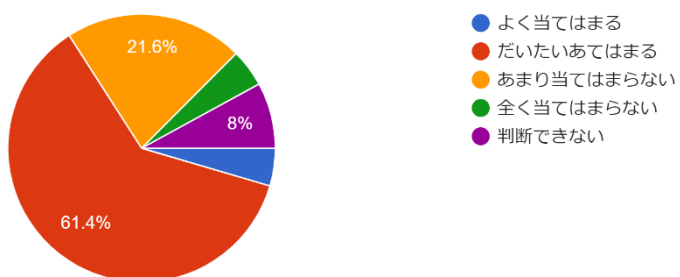
質問 1 2 私は、子どもが集団生活に必要な決まりやマナーを守っていると思う。



質問 1 3 私は、子どもが学習内容を理解しようと積極的に学んでいると思う。

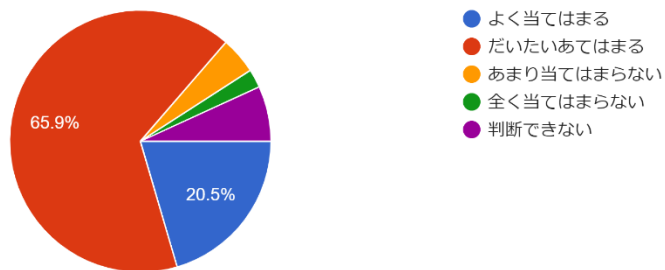


質問 1 4 私は、子どもが学校で学んだことが家庭生活の中でも見られるようになっていると思う。

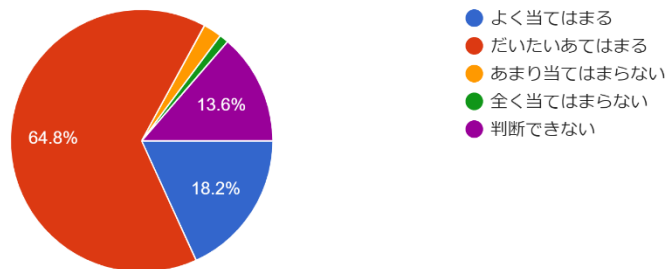


◆教職員の生徒および保護者との関係はいかがでしょうか。

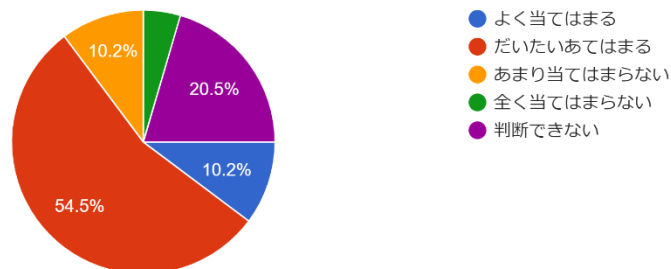
質問 1 5 私は、教職員が生徒への声かけを大切にし、生徒理解に努めていると思う。



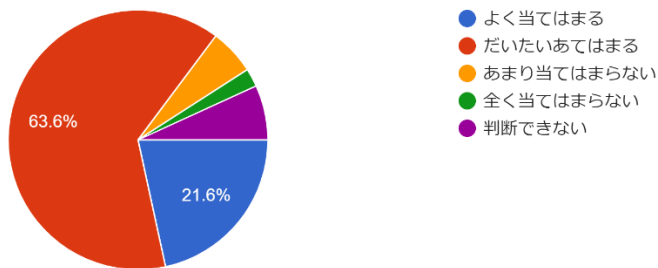
質問 1 6 私は、教職員が規範を示し、社会の一...につけるべき内容を適切に指導していると思う。



質問 1 7 私は、教職員が一人ひとりの生徒の理...定着を図るために指導の工夫をしていると思う。



質問 1 8 私は、教職員が保護者とともに子どもの成長のために協力してくれていると思う。



質問19 私は、教職員が保護者に「お便り」等で生徒の様子を適切に伝えてくれていると思う。

